SOWER

ソア＝種まく人

No.51
May 2023
一般財団法人
日本聖書協会

特集 考古学から見る聖書の世界

新聖書の世界 50

写真／文 横山匡

生温いラオディキア教会

現在のトルコ西部、フリギア地方にラオディキアの町はありました。近くにはコロサイとヒエラポリスの町があり、これら三つの教会の人々は互いに行き来していたようです。パウロが獄中から書き送ったコロサイの信徒への手紙も、三教会で回し読みされていたと思われます。

エーゲ海の孤島パトモスの洞窟でキリストの黙示を受けて書かれたヨハネの黙示録の中に、ラオディキアの教会に宛てて書かれた手紙があります。

「熱くも冷たくもなく、生温いので、私はあなたを口から吐き出そう」（黙三・一六）。この町の競技場近くに造られた浴場まで、山から温泉を引いてきた石の導水管が残されています。浴場に届いたころには生温かったことから信仰に例えられたと言われています。

ラオディキアは商業都市として繁栄を極めました。「あなたは、『私は裕福で、満ち足りており、何一つ必要な物はない』と言っているが……」（同一七節）。紀元六〇年の大地震で町は壊滅しますが、国の援助を断り、独力で復興したことからこのような言葉が出たのでしょう。地元の産物だった白い衣を買って裸の恥を隠し、目薬を買って見えるようになりなさいと、悔い改めを迫る言葉が綴られています。

The World of the Bible “lukewarm Laodicea church” / Photo & Essay by Yokoyama Tadashi

巻頭聖句

あなたがくださった栄光を、
私は彼らに与えました。
私たちが一つであるように、
彼らも一つになるためです。

（ヨハネによる福音書17章22節　聖書協会共同訳）

ジュネーブの世界教会協議会（WCC）本部の中央講堂正面に、キリストを中心として世界各地に諸教会が存在している場面を描いた大きな壁画があります。そこには、ヨハネによる福音書一七章二二節の聖句「彼らも一つとなるため」という主イエスの祈りがギリシア語で刻まれています。この主イエスの祈りに対して、分裂の歴史を繰り返してきた世界の諸教派が一致と協力をめざして応答してきたと言えるでしょう。聖書の証しとエキュメニズムを基軸に掲げてきた神戸バイブルハウスも今春二〇周年を迎えました。これからも主イエスの祈りに誠実に応答していきたいと願っています。

神田健次（かんだ　けんじ）
クリスチャンセンター神戸バイブル・ハウス理事長

CONTENTS

SOWER No. 51 2023

2 特集
考古学から見る聖書の世界

8 人物と聖書㊱　鈴木範久
島崎藤村と聖書

10 エッセー㊼　春日いづみ
「鷲の翼にのって」

12 聖書セミナー㉕　髙橋洋成
イエスの時代の言語と「なまり」

14 第1回聖書エッセイコンテスト入選作品
大賞　「父の遺言」見澤富子
準大賞　「私につながっていなさい」吉國選也
準大賞　「きせきのくすり」小松崎有美

18 キリスト新聞社主催
第3回聖書ラノベ新人賞が決定しました
準大賞　「いのちのパン屋さん」地野千塩

19 JBS情報

20 ソア51号発行によせて
編集後記

21 新・歴史接写❷
川瀬巴水の「新版画」に描かれた聖書館

表紙の言葉
今回は広島県広島市中区にあるカトリック幟町教会 世界平和記念聖堂です。広島の川砂を使用して作られたモダンなコンクリート壁の教会ですが、大戦後焦土となった広島でその姿は、力強く立ち上がる希望の象徴として愛されてきた姿でもあります。（絵・文＝佐藤百合子）

特集 考古学から見る 聖書の世界

19 世紀後半以来、聖書と考古学の関係は
150 年近い歴史があります。
考古学研究がもたらす古代についての情報は
聖書の世界への理解をより深いものにしてくれます。
昨年、月本昭男先生（古代オリエント博物館館長）に
聖書の世界を含め古代オリエント世界の
さまざまな展示を幅広く解説いただき、
「聖書の世界と考古学」として動画を公開しました。
今号ではその一部を誌面で紹介いたします。

広報部

農耕と牧畜

メソポタミア文明が成立する以前、今から一万年ほど前に、人類は農耕を始めました。それを境に、道具も新たな発展をみせ、石器はそれまでの打製石器などの素朴なものから、磨製石器や小さな精巧な石器も作られるようになっていきました。農耕の始まりとほぼ同時期に、牧羊も始まりました。狩猟採集の段階のイメージがあるせいか、牧羊は農耕に先行すると考えられがちですが、ほとんど同時期に始まったとされています。創世記でアダムとエバのエデンの園の物語に続くのは、農耕をするカインと牧羊をするアベルの物語です。

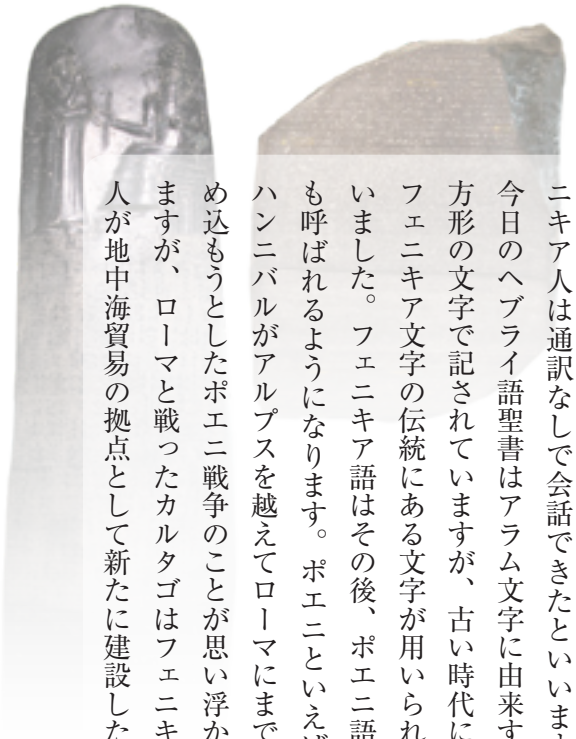
文字の発明

メソポタミア文明は文字の使用によって、本格的な発展を始めますが、農耕がもたらした経済的な発展が文字の発明を促したといったほうがよいかもしれません。最初に文字が書かれたのは当然、紙ではなく、メソポタミアの場合、粘土で作った板でした。そこに葦の茎で作ったペン状のものを押し付けて書いたのが楔形文字です。物品の数を書き留めるなど、いわば帳簿

古代オリエント博物館

西アジア、エジプト地域を中心として、旧石器時代からサーサーン朝時代までの資料約5,000点、およびシリア出土品を多数収蔵する国内初の専門博物館として1978年に開館。

東京都豊島区東池袋3-1-4
池袋サンシャインシティ文化会館ビル7階
電話： 03-3989-3491
開館時間： 10:00～17:00（入館は16:30まで）
休館日： 展示入替日および年末年始
https://aom-tokyo.com



（右）**ロゼッタストーン**（複製）
（左）**ハンムラビ法典**（複製）

2019年イスラエル北部の遺跡テル・レヘシュで発掘されたシナゴーグ（ユダヤ教の会堂）跡

のようなものが最初の「文書」とされています。エジプトではパピルスの髄で作ったパピルス紙が使われました。

古代オリエント博物館には「ハンムラビ法典」と「ロゼッタストーン」の原寸大のレプリカも展示されています。前十八世紀のものとされるハンムラビ法典（ルーブル美術館所蔵）には、出エジプト記などに記された律法と共通する法律条項があることが知られています。また、ナポレオンがフランスに持ち帰ったロゼッタストーン（現在は大英博物館所蔵）はエジプトのヒエログリフ解読に大きな役割を果たしました。

文化の発展とともに言語や文字はさまざまに発展してきました。旧約聖書はヘブライ語で書かれましたが、今日のレバノン海岸地域を拠点に広く地中海沿岸で活動していたフェニキア人の言語と非常に近い関係にあり、当時は文字も共通していました。古代のイスラエル人とフェニキア人は通訳なしで会話できたといいます。今日のヘブライ語聖書はアラム文字に由来する方形の文字で記されていますが、古い時代にはフェニキア文字の伝統にある文字が用いられていました。フェニキア語はその後、ポエニ語とも呼ばれるようになります。ポエニといえば、ハンニバルがアルプスを越えてローマにまで攻め込もうとしたポエニ戦争のことが思い浮かびますが、ローマと戦ったカルタゴはフェニキア人が地中海貿易の拠点として新たに建設した都市でした。

バベルの塔とバビロン

古代西アジアの建材は粘土に藁などを混ぜて固めたものを天日で干して作る「日干しレンガ」と呼ばれるものが中心ですが、バベルの塔の物語（創世記十一章）でいわれているように、焼いた煉瓦も知られていました。

十九世紀末から二十世紀初頭にバビロンで行われた発掘では、バベルの塔のモデルとされるジックラトゥ（ジグラット）や青い彩釉煉瓦を用いたイシュタル門が発見されました。ユダ王国を滅ぼし、王国の指導者層を捕囚として連れ去ったネブカドネツァル二世の時代に、バビロンの町はユーフラテス川の両岸にまで拡大され、町全体を囲む城壁は全長18キロに達したといいます。預言者ヨナが訪れたアッシリアの都ニネベは一回りするのに三日かかったといわれていますが（ヨナ書三・三）、城壁の全長は10キロほどでした。エルサレムの城壁は陷落した頃には全長3キロほどと推定され（現在の城壁は約4キロ）、バビロンに連行されたユダの人々がその規模に圧倒されたことが想像されます。

「ラピスラズリの道」

青く輝くラピスラズリは現代の分類では準宝石ですが、古代西アジアでは非常に人気のある装飾の素材でした。今日のアフガニスタンでしか採れなかったため、遠くエジプトにまで及ぶ古代の交易路が発達しました。旺盛な需要に応えるため、ラピスラズリを人工的に作る試みも

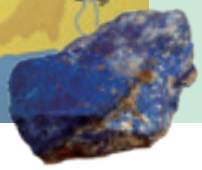
ポエニ語碑文（寄託）
チュニジア　前4〜前2世紀

アマル・スエン王銘入り煉瓦
南メソポタミア　前2040年頃

グデア王銘入り粘土釘
南メソポタミア　前2100年頃

パルミラ遺跡模型
中央がベル神殿。
ほぼ破壊された。

ラピスラズリの道



ラピスラズリの原石

古くから行われ、前一五〇〇年頃にはファイアンスと呼ばれる青ないし緑の焼物を作ることに成功しました。この技術がガラスの発明につながります。当初のガラスはラピスラズリのような深い青でしたが、ローマ時代には透明で薄い「ローマン・グラス」が普及します。

パルミラ

現在のシリア・アラブ共和国中部の都市遺跡パルミラは、聖書ではタドモルという名で知られ、ソロモン王が建てたという伝説も残されています。三世紀の女王ゼノビアはローマ帝国と対等に渡り合い、一時はシリア・パレスティナだけでなく、今日のトルコ東部、エジプトの支配権をローマから奪取していたとされています。パルミラの発掘調査には奈良県立橿原考古学研究所を中心とする日本の調査隊が一九九〇年以来、墓所の発掘などで大きな貢献をしてきました。壮麗な遺跡はいち早く世界遺産に指定されましたが、残念ながら二〇一五年、ISIL（イスラム国）により大きく破壊されてしまいました。

ヘラクレスとライオン

ギリシア神話の英雄ヘラクレスの胸像はライオンの皮をマントのようにしてまとっています。アレクサンドロス大王が銀貨の図案でライオンの皮をかぶっているのはヘラクレスにあやかって、力ある者であることをアピールしているとされています。聖書でサムソン（士師記十三～十六章）が今日「旧約聖書のヘラクレス」と称されるのもただ単に力持ちという共通性だけでなく、ライオンにまつわる挿話があるからでしょう。古代の像に限りませんが、些細なことにも、何らかの意味が含まれていることがあります。そういうポイントを見つけることも博物館などで現物（あるいはレプリカ）を見るとき

「神殿模型」

家の形をした土製の遺物は「神殿模型」と通称されていますが、日本の神棚と似た役割をもっていたようです。創世記のヤコブの物語では、ラバンの家から逃れるとき、ラケルが家からテラフィム（守り神の像）を盗み、ラクダの鞍の下に隠していました（創世記31:34）。このテラフィムは神殿模型の中に安置されていたと考えられています。同じような神殿模型はイスラエルでもいくつか発見されています。

神殿模型

カエル形分銅

アレクサンドロスの（？）銀器（寄託）
中央アジア　5-6世紀

ヘラクレスの胸像
シリア　1-3世紀

アレクサンドロスの銀貨

三面神石彫
北シリア　前1800-1700年
冠の右側に角があることで神であることを示している。3つの顔をもつ神の像は非常に珍しい。右は旧約聖書に登場する異教の神バアル（シリア・ウガリット出土、後期青銅器時代）

の楽しみのひとつかもしれません。古代の西アジアには広くライオンが生息していたことはメソポタミアのレリーフなどからも知られていますが、気候の変化や人間の自然利用などにより、象などの大型の動物だけでなく、かつて生息、繁茂していた動物や植物がこの地域から消えてしまったことを古代の遺物は教えてくれます。

エデンの園のアレクサンドロス？

五―六世紀の中央アジアのものとされる銀器に描かれているのは、これまでホメロスの『イーリアス』をモチーフにしたものと考えられていましたが、最近の研究でアレクサンドロスがエデンの園に行き、命の水を飲み、生命の木の実を食べたというユダヤの伝説を描いたものという説が提案され、大いに注目を集めています。

金と銀

金属の中で金と銀が重視されるのは古代も現代も変わりません。金はその輝きから装飾品として珍重され、メソポタミア南部のシュメールの都市ウルの王墓で発見された女王の冠などが知られています。ウルは約束の地へと向かうアブラハムの故郷とされます（創世記十一章）。

一方で銀は実用的な機能を果たしていました。貨幣経済が始まる以前には、銀の重さによってモノの価値がはかられ、取引などにも用いられていました。アッカド語の「シクル」という重さの単位が聖書では「シェケル」という語になりました。いろいろな重さの石製分銅がまとまって出土した例があり、1シェケルは約11・4グラムとする説が最近では有力です。これによれば、ヨセフがイシュマエル人に売られたときの対価、銀20シェケルは銀約２３０グラムだったことになります（創世記三七・二八）。

重さの統一には分銅が用いられましたが、分銅の重さは自由に変えられます。旧約聖書には、分銅や枡をごまかして、暴利を得ようとする商人たちの密談が暴露されています（アモス八・五）。度量衡の確立には公正な権威の安定的

こぶ牛形土器

イラン　前1200-800年
博物館で見ることのできる古代からの遺物の中には、理解が難しいものもあります。古代オリエント博物館の「こぶ牛形土器」はそうした遺物のひとつでしょう。液体を注ぐという機能からすれば、牛の形をしている必要はありませんし、むしろ機能的ではありません。しかし、想像力を掻き立てられ、古代の人々の発想に近づくきっかけになるかもしれません。

青銅製の長剣・短剣

な存続が必要とされます。

金属の話

発掘からの出土物の大半は土器の破片ですが、金属では青銅製の剣などが見つかります。金や銀などはその価値を重視した用いられ方をするのに対して、青銅などの製品は実用的な用途が考えられがちですが、装身具としてお守りや奉納品である場合も多いようです。

鉄は腐食しやすいため、原形をよく留めたものが発掘で見つかることはほとんどありません。イスラエルの民が聖書の地、パレスティナに登場したのは前一二〇〇年頃とされていますが、西アジアの考古学ではこの前一二〇〇年を「鉄器時代」の始まりとしています。道具の素材としての鉄が普及し始める時代ということですが、当初、鉄の生産は技術的な理由からか、すぐには盛んにならず、見た目と実用性に反して、貴重品とされていたという説もあります。聖書によれば、山地に住むイスラエル人は農具などの金属製品の修理をギリシア系の民とされる海岸平野のペリシテ人に依存していました（サム上十三章）。鉄とは明言されていませんが、加工技術の普及が進んでいなかったことを示しているのかもしれません。

ランプ

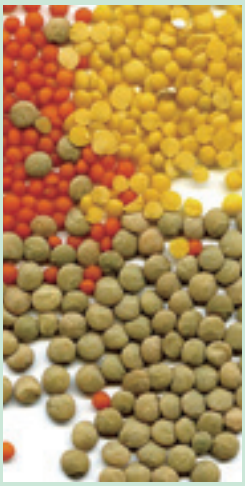
旧約聖書時代のランプは皿の縁を一部つまんで狭く成形したものでした。そこに灯心を置き、皿の部分にオリーブ油を入れて灯りを灯しました。預言者サムエルが深夜に神に呼ばれ、三度、契約の箱のあたりを歩くシーンを照らしていたのもこうしたランプの火だったのかもしれません（サム上三章）。ローマ時代には型を使って成形したランプが多く作られるようになっていきます。中央の孔から油を入れ、把手とは反対側の孔に灯心を立てます。イエスの譬えで、隠さずに燭台の上に置くようにと言われているのはこのランプの灯りだったのでしょうか（マルコ四・二一）。アラビアンナイトの魔法のランプの形はここから発展したものです。

古代の食生活

メソポタミアの文献は聖書以上に当時の日常的な食生活を垣間見せてくれます。麦類や各種の野菜、川魚、羊などの肉を食べていたことは容易に想像できますが、今日の西アジアの食卓でよく見られるレンズ豆やひよこ豆などの豆料理も多く作られていました。ヤコブがエサウに食べさせたのはレンズ豆の煮物でした（創世記二五・三四）。また、古代文書はネギ類を細かく分類していたことが分かっています。楔形文字には漢字における部首のような役割をもつ決定詞と呼ばれるものがありますが、いわば「ネギ

（上）鉄器時代のランプと
（下）ローマ時代のランプ（寄託）

ひよこ豆



レンズ豆

テル・レヘシュの遺跡全景

エン・ゲヴ遺跡で発見された列柱式建造物

オリーブ油の圧搾施設

レヘシュ遺跡のシナゴーグ模型

ビールをストローで飲む（円筒印章の印影）

偏」がついた言葉が思いの外、多いといいます。飲み物ではビールとワインが知られていますが、特にビールは多くの種類がありました。ただ麦殻などのカスを濾す布がうまく作れなかったため、ビールを大きな壺に入れ浮いているカスを避けるようにしてストローで飲んでいたことが円筒印章の図柄などからも知られています。

イエスの弟子たちにガリラヤ湖の漁師がいたように、ガリラヤ湖では漁業が盛んでした。獲れた魚は塩漬けにして魚醤（ガルム）を作り、ローマに輸出されていました。

イスラエルにおける日本の発掘調査

イスラエルでの考古学調査には日本の発掘調査団も長く関わってきました。一九六〇年代に行われた海岸平野に位置する遺跡テル・ゼロールでの発掘がその最初です。テル・ゼロールからは石棺墓や甕棺墓からなる鉄器時代の墓地などが発見されました。一九九〇年代から二〇〇〇年代にはガリラヤ湖東岸のエン・ゲヴ遺跡の発掘が行われ、石柱を多く用いた列柱式の建物と巨大なケースメイト城壁が出土しています。

現在は「イエスが変貌した山」とされるタボル山を臨むテル・レヘシュでの発掘調査が行われています。後期青銅器時代末（前13世紀末）のオリーブ油の圧搾施設の存在は周辺でオリーブが多く採れたことをうかがわせます。ローマ時代のシナゴーグ（ユダヤ教会堂）の跡は最初期のもので、他には数例しか知られていません。ほぼ同じ時代の例はガリラヤ湖畔のマグダラからも見つかっています。遺跡に住んでいたのがユダヤ人であることがわかる出土物としては石灰岩で作った石器が挙げられます。土製の器では水分が浸み込むなどの理由から、ユダヤの律法で決められた食物規定を守ることができない場合があるので、石製の器が多く用いられていました。レヘシュの遺跡からさほど離れていないところには、イエスがやもめの息子を生き返らせたという奇跡の話が伝わるナインの村もあります（ルカ七・一一―一七）。

以上、月本先生による古代オリエント博物館展示物のご紹介動画を基に、いくつかの関連する事物を紹介してきました。考古学の視点を加えて読むことで、聖書の世界はより具体的に迫ってきます。皆様も一度古代オリエント博物館を訪れてみてはいかがでしょうか。

協力・古代オリエント博物館

月本先生にご案内いただいた解説の様子とインタビューは、聖書協会のYouTubeチャンネル「ここが知りたい聖書のツボ」でご覧いただけます。https://youtu.be/uxCWRmnynDU

再生の祈り 島崎藤村と聖書

鈴木範久 すずき のりひさ 立教大学名誉教授

藤村所蔵の聖書
藤村記念館所蔵

新しき詩歌

藤村は、『藤村詩集』（一九〇四）を公刊するにあたり、序文の冒頭で高らかに宣言した。

遂に新しき詩歌の時は来りぬ。

ここには、新しい思想と感情とに新しい表現形態を与えられた青年の魂の喜びと意気込みとがほとばしっている。

それまでは、短歌、俳句のほかは、詩文といえば漢詩の世界しかなかった。そこでは形式はもとより内容にも制限があったのではないか。

たとえば『落梅集』のなかの「労働雑詠」には次の詩句がある。

雲に鞭うつ空の日は
語らず言はず声なきも
人を励ます其音は
野山に谷にあふれたり

この詩句が、旧約聖書詩篇一九篇の「語らずいはずその声きこえざるに　その響きは全地にあまねく……」によっていることは明らかである。

また、すでに笹淵友一によって指摘されたように、「労働を神聖視し、或は勤労そのものに意義を認めるといふ思想は、近代以前には見出し難い」聖書の影響とみなされる。（『文学界とその時代　下』明治書院、一九六〇）。

白金の学び舎

木曽の馬籠に生まれた藤村は、一〇歳で

上京、一八八七年、開校したばかりの明治学院に入学する。翌年、高輪台町教会で木村熊二牧師から受洗。一八九〇年夏、第二回キリスト教青年会夏期学校が明治学院で開催された。壇上に次々と登場する名高い講師たちの姿に興奮している藤村の姿は、作品『桜の実の熟する時』（一九一八）に生き生きと描かれている。

しかし、藤村は、一八九三年、明治女学校の教師を辞任するとともに、教会からも離脱して旅立つ。作品『春』（一九〇八）には、その最後に「あゝ、自分のやうなものでも、どうかして生きたい」との言葉が記されている。

明治学院を卒業して一〇数年後の一九〇六年、藤村は母校のために校歌を書き上げた。それは、一見、キリスト教とは関係のないような歌詞であったが、最後の「雄々しかれ　目さめよ　起てよ　畏る々なかれ」の語句などに旧約聖書イザヤ書三五章四節の「なんぢら雄々しかれ懼るゝなかれ」（一八八八年）の言葉の反映を認めることができる。

新生の祈り

一方、藤村の人生は多難だった。次々と幼い子供たちの死を体験するとともに、一九一〇年、三九歳にして妻をも失った。この後、藤村の身に起った事件は、その告白小説ともいえる「新生」（一九一八年、『朝日新聞』に連載）で知られ、さまざまな非難も浴びた。一九二八年、加藤静子と再婚。静子は、もともとキリスト教信徒であり、やがて共に聖書を読み始める。藤村の用いたとされる聖書には書き込みが認められ、そのひとつに「義人は信仰によりて生くべし」（ロマ書一・一七）があった（伊東一夫『島崎藤村研究』明治書院、一九六九）。藤村は最期まで信仰による「新生」を熱望したとみてよいかもしれない。

明治学院普通学部本科時代の藤村（左端）と学友たち
明治学院歴史資料館所蔵

明治学院校歌記念碑

エッセー 47

鷲の翼にのって

春日いづみ

「アダムの肌は何色だったか」、これはある映画で繰り広げられる高校生の討論会に出された論題である。イスラエルに住む白人とエチオピアから移民として入国した黒人が対決する場面だ。アダムは神が一番初めに創造された人間。肌の色が何色であったかは、神がどの肌を愛しているかにもつながる大きな問題をはらんでいる。討論会で、しかもまだ高校生が激しく語り合う場面を、それまで考えたこともなかった私は息をのんで見守った。二〇〇五年に製作されたラデュ・ミヘイレアニュ監督のフランス映画「約束の旅路」。映画の冒頭、そびえ立つ岩山の上をゆっくりと一羽の大鷲が舞い「出エジプト記」の一節が字幕に映し出される。

〝あなた方をワシの翼に乗せて私の所へ来させた〟
出エジプト記　19章4節

エジプトを出たイスラエルの人々がシナイの荒れ野に宿営中、神がモーセに語り掛けた言葉である。一九八四年末から八五年はじめにかけて、イスラエルとアメリカが秘密裏に行った「モーセ作戦」の史実の上に物語は展開する。エチオピアにはソロモンとシバの女王の末裔であることを誇りとするファラシャと呼ばれているユダヤ人が古代からいる。数千年にわたり聖書のこの言葉を信じ、彼らは聖地エルサレムへの帰還を夢見ていたという。聖書の言葉が、脈々と力をもって伝えられていることに驚くばかりだが、「詩編」には出エジプトの出来事を子々孫々まで伝えよという詩句が度々語られていることを思い起こした。エチオピアは飢饉に見舞われ、餓死する者が後を

「約束の旅路」
原題：Va, vis et deviens
監督ラデュ・ミヘイレアニュ

絶たない混乱した状況の中、主人公の九歳の少年シュロモはエチオピアからスーダンの難民キャンプを目指し徒歩で行くが、途中、略奪や争い、飢えのため、母以外の家族を失ってしまう。スーダンの難民キャンプからユダヤ教徒だけがイスラエルに輸送される。シュロモはキリスト教徒であったが、母の機転でユダヤ教徒になりすまし母と別れて、イスラエルへの飛行機に乗り込むことができた。夜空を飛び立つシーンに、飛行機の羽は彼らにとって「ワシの翼」であったろうと思った。シュロモはユダヤ教徒ではあるがシナゴーグには通わないリベラルな思想を持つ家族の養子になり、わが子同然に可愛がられる。だが学校などで肌の色や言語、文化の違いによる差別を受ける。高校生になり、恋人の誕生パーティに行っても正統派ユダヤ教徒の彼女の父親から黒人ゆえに拒絶されてしまう。シュロモはユダヤ教徒と偽ってきたことに良心の呵責を覚えていた。

さて、弁論大会、シュロモの対戦相手である白人は「神が選んだ肌の色は美しい白」と語り、「ハムの子孫は黒人になった」と「創世記」九章二五節を引用する。ノアがハムの子カナンを呪った箇所、ハムがぶどう酒に酔ったノアを見て兄弟に告げたからだ。対するシュロモは、「神はアダムを粘土と水から造り、命を吹き込んだ。アダムの肌は粘土の色の赤だ」と主張し、すべては神のみ心で、肌の色に関わらず人々が何かになることを望み見守っていると話した。大きな拍手が湧き、シュロモが優勝した。自らのアイデンティティに苦しんでいたシュロモは医師になり、国境なき医師団に加わり、スーダンの難民キャンプで実母と再会する。この作品の原題は「Va, vis et deviens（行け、生きよ、何者かになれ）」。どんな環境にあっても、行動すること、生きること、何者かになること。ロシアによるウクライナ侵攻から一年、混迷を深め多くの難民を抱える地球に再生のための大きな問いが渦巻いている。神の御言葉こそ鷲の翼ではないだろうか。

この作品は昨年惜しまれつつ閉館した岩波ホールにて上映された。

春日いづみ（かすが・いづみ）
現代歌人協会理事
聖書協会共同訳日本語担当翻訳者兼
編集委員、聖書協会共同訳諮問委員会委員
岩波ホール上映作品のシナリオ採録を
30年にわたり担当

イエスの時代の言語と「なまり」

髙橋洋成
たかはし よな
東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ特任研究員

新約聖書の最古の形態はギリシア語の写本である。しかし、イエスが使用していた言語はアラム語だった――というのが通説となっている。前六世紀のバビロン捕囚以降、ユダヤ人の日常語はヘブライ語からアラム語へと移行した。旧約聖書のヘブライ語は古典語として教養層にのみ理解されており、教養層と対立したイエスは日常語のアラム語で民衆に語りかけた――研究者によって細部は異なるが、概ね以上のようなストーリーが描かれる。

ところが、である。二十世紀半ばにユダ砂漠（死海周辺）から大量の文書が発見され、おおよそ前三世紀から後二世紀の間に書かれたものと同定された。つまりイエスと同時代の文書を含んでいる。その多くはヘブライ語、アラム語（ナバテア語を含む）、ギリシア語で書かれており、少数ながらラテン語、アラビア語の文書も存在する。

このうちヘブライ語の文書に着目すると、この時代には大きく二種類の書き言葉が併存していたことが判明した。一つは主にクムラン宗団が使用していたもので、聖書のヘブライ語を模倣しつつ、日常生活の表現を取り込んだような書き言葉である。もう一つは、土地の売買契約や私的な書簡などの非宗教的な文脈で使用された書き言葉であるが、こちらは二世紀末に編纂されるミシュナ（口伝律法集成）のヘブライ語と同じものだった。しかも、話し言葉に由来すると思しき音省略や音融合がそのまま書き記されていた。つまり、三世紀以降には古典語・学術語となるミシュナのヘブライ語も、イエスの時代には日常的な話し言葉だった可能性が大きくなったのである。

もちろん、このことは直ちに「イエスの時代にヘブライ語を母語とする人々が存在した」ことを意味するものではない。聖書のヘブライ語と同様、イエスの時代におけるミシュナのヘブライ語も母語話者のいない「死んだ言語」で、教育による習得が必要だったかもしれない。いずれにせよ、通説とは異なり、ヘブライ語が書き言葉と話し言葉の両面にわたって、商業活動や私的交流を支えた「活力ある日常語」であったことは、否定できないものとなった。

一方、イエスの時代のアラム語も「活力ある日常語」であったのは間違いないが、その実態の解明は進んでいない。当時のアラム語の碑文は多数発見されてはいるが、語や文の種類が少なすぎる。また、ユダ砂漠のアラム語の文書の多くは外国で記されたものの書き写しである可能性が大きく、パレスティナのアラム語を反映したものとは言い難い。さらに、ユダヤ人のタルグム（アラム語訳聖書）のアラム語は、近年の研

ベン・コシバ（バル・コクバ）の書簡（2世紀前半）。ミシュナのヘブライ語と同じ書き言葉で、ところどころ話し言葉に由来すると思しき音省略が見られる。

出典：P. Benoit et al. (eds.) (1961) *Discoveries in the Judaean Desert*, II: *Les grottes de Murabba'ât*, Oxford: Clarendon Press. PL. 43.

究によると三世紀前後のものと推定されている。このように、イエスの時代のアラム語のデータは案外乏しいのが現状なのだ。

こうした資料状況のため、ギリシア語の文書の中に見られるわずかな「セム語形」も、イエスの時代における言語実態の一端を垣間見るものとして貴重である。たとえば、マルコによる福音書の「タリタ、クム」（五・四一）、「エッファタ」（七・三四）、「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ」（一五・三四）は、私たちの言語知識ではアラム語ともヘブライ語とも断定し難い。むしろ、マルコは意図的に非スタンダードな表現、つまり「なまり」を散りばめているようにも見える。事実、マタイによる福音書は「お前もあの連中の仲間だ。言葉のなまりで分かる」（二六・七三）のように、イエスや使徒らに「ガリラヤなまり」があったとストレートに記す。

また、ヨハネによる福音書の「ラボニ」（二〇・一六、なおマコ一〇・五一にも）は、語形的に「サマリアなまり」の可能性がある。イエスの故郷であるナザレはガリラヤとサマリアとの境界付近にあったため、イエスが「サマリアなまり」を理解できたという想像は許されよう。

さらに、イエスはヤコブとヨハネの兄弟に「ボアネルゲス」というあだ名を付けたが（マコ三・一七）、一説によれば、これはギリシア語のボアン「叫ぶこと」とヘブライ語のブネ・レゲシュ「喧騒の子ら」との混成語だという。もしそうなら、イエスはギリシア語の言葉遊びをしたことになる。イエスの活動の場だったガリラヤは、碑文の分布から推測するに、アラム語を基層としつつ、ユダヤから流入したヘブライ語、そしてギリシア語、ラテン語が織り重なる一帯だった。中でも優勢だったギリシア語を、イエスが理解できたとしても不思議ではない。

パレスティナでは多くの言語が飛び交い（使二・五―一一）、多くの「なまり」があった。イエスはアラム語、ヘブライ語、ギリシア語を状況に応じて使い分けたかもしれないし、どの言語を話したとしても「なまり」を持っていたかもしれない。そして福音書の記者らも、あえて「なまり」を持つイエスを描いたのかもしれない。

2022年11月6日に開催された「聖書セミナー・広島」での髙橋氏と佐藤裕子氏（フェリス女学院大学教授）対談「聖書のことば　聖書とことば―原語、翻訳、文学から見た聖書の魅力」並びに髙橋氏リモートインタビュー「聖書に聞く―神の恵みによって、今の私があるのです。」の動画を、日本聖書協会YouTubeチャンネルにてご覧いただけます。

日本聖書協会
YouTubeチャンネル
https://www.youtube.com/c/JapanBibleSociety

第1回 聖書エッセイコンテスト 入選作品

大賞

父の遺言

見澤富子

読書が好きだ。読書と言っても小説とか漫画とかじゃなくて、聖書を読むのが好きだ。朝から聖書を読んでいると「なんだ。試験勉強じゃないのか」とガックリ肩を落とす母の残念そうな顔が好きだ。途中トイレに行けば「門をたたきなさい。そうすれば開かれる」と兄がマタイによる福音章の一節を引用する。そんなお茶目なところも好きだ。メイク中の姉に「今日も目がキレイだね」と言うと「人の長所ばかりを見てるからね。目が澄んでいれば全身が明るいんだよ」と聖書の一節を引用しつつ、アイラインをグッと引く。あの得意顔も好きだ。

そんなわが家も十一年前。震災ですべてを失った。家は津波で流され、大切な父も流された。いくら探したかもわからない。いくら泣き叫んだかも。あの時の津波のしょっぱさは、きっと、涙の味だった。

だけど奇跡は起きた。震災から二週間後。瓦礫の中から父の聖書が見つかった。これは父が生前よく読んでいたもの。何だか父の里帰りみたいで胸が熱くなった。

「ノアの大洪水の後、もうしないよって約束の証に主が虹をかけたんだよ」

父は私によく聖書の話をした。私が「じゃあ、虹は笑顔の証拠なんだね」と言うと、やさしく微笑んだ。

いま懐かしい思い出を胸に、どうしても父を奪った津波が「ノアの洪水」と重なってしまう。怒りや哀しみ。どうしようもない気持ち。もちろん、ある。それでもここに父の聖書が残る意味は、きっと、ある。これは父の遺言であり、愛のメッセージ。

「何かあったら聖書を読んでごらん。きっとチカラが湧いてくるよ」

天国からささやく父の声が聴こえた気がした。それからというもの、皆で聖書を読むようになった。避難所の生活に疲れた日。電気を止められた日。進学の夢を断たれた日。いつでも聖書は私たちと共にあった。苦しい時でも聖書を読むと勇気が湧いてくる。虹の前には必ず雨があるように、雨のような涙を流したって、いつか虹のような未来が待ってる気がした。

先日のお墓参りは雨だった。帰り道、空に上がる虹を見て「きっとパパが喜んでるのね」と母が笑う。この時の笑顔がものすごく好きだ。

読書も、聖書も、家族こそ好きだ。これからも私たち家族は「聖書」と共にある。聖書を通じて父を傍に感じられたらいいし、笑顔になれたら、もっと、いい。そんなことを考えるのが今は一番好きだ。

●選評

見澤富子さん、おめでとうございます。

東日本大震災の津波で、大切なご家族やご友人を亡くした方々の悲しみは癒えることはなく、それは被災していない私などにはわからない重さです。あれから私は、特に洪水の箇所は読みにくくなり、教会学校でのお話も躊躇してしまいます。ところが今回ハッとしました。

お父様を亡くされた見澤さまご自身が、このような力強い証を書いてくださったのです。神さまの約束の虹、それを私ももっと大事にしなければ。

本当に素晴らしいこのエッセイを、たくさんの方に読んでいただきたいです。

（林あまり）

仲の良いご家族が聖書を通じて交流する導入部の光景がハートウォーミングなので、そこから一転し、東日本大震災でお父様とご自宅を喪失された巨大な悲劇が、読んでいて胸にずしりと重く響きます。残酷な津波から「ノアの大洪水」を連想してしまうのは、被災されたクリスチャンの多くが深刻に葛藤された問題ではないでしょうか。だからこそ、瓦礫の中からお父様の聖書が奇跡的に見つかったことは、まさに天国のお父様からのメッセージのようです。雨上がりの虹の中で微笑むお父様の笑顔が、読んでいて、ありありと目に浮かびました。選評委員のふたりだけでなく第1回聖書エッセイコンテストの関係者全員から満場一致で支持された、まさに大賞にふさわしい、素晴らしいエッセイです。

（清涼院流水）

準大賞

私につながっていなさい

吉國選也

私が小学四年生のとき、母が病に倒れた。父は早くに天に召され、母は女手ひとつで私たち兄妹四人を育てていた。「母子家庭だから」と後ろ指を指されたくない、そう思って無理を重ねていたのだろう。母の顔は日に日に土気色になっていく。やっと医者に診てもらった時には、一刻も早く胆のう摘出手術をしなければ命の危険さえあると言われた。身寄りの少なかった私たちはそれぞれ、親戚や篤信なクリスチャンの友人に別々に預けられることになった。

私は同じ教会に通う教会員の家庭に預けられた。年の近い子どもたちが住んでいたこともあり、最初の数日こそ楽しく過ごしたが、しょせんは肩身の狭い居候生活である。他人の善意に甘えていることは幼心にも理解していたので、やがてすべてに遠慮がちになった。ひと月、ふた月が過ぎても母は退院する気配がない。このまま家族が離れ離れになるのではないかという漠然とした不安が重く心を覆っていった。

そんな私を見かねてか、ある時おばさんが自分の好きな聖書の箇所を教えてくれた。

「私はまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である」「私につながっていなさい」「その人は実を豊かに結ぶようになる」

現実は家族がバラバラになり、明日どうなるかもわからない境遇だった。そんな自分に「私につながっていなさい」と語りかけるその言葉。心地よい旋律のような響きは私の脳裏に刻み付けられた。しかし、それが聖書のどこに書いてあるのか、その時はおばさんに遠慮して、ついに聞くことが出来なかった。

それから程なくして母は退院し、幸いなことに私たち家族はまた一緒に暮らすことができるようになった。血色の戻った美しい母の頬っぺが嬉しかったのを覚えている。

わが家に帰った私は、学習机に立て掛けてあった自分の聖書を、ほとんど初めて自分の意思で開いた。あの言葉はどこに書いてあるのか。パラパラ漫画の落書きが端に描いてある聖書のページを、漫画には目もくれずにめくっていった。

学校帰りの午後、数日を要したと思う。族長アブラハムの物語が終わり、私と同じ名前の預言者エリヤの物語も過ぎた。イザヤ書の預言の言葉がなんとなく似ていて、読み落としたかともう一度読み返したがあの言葉は書いていなかった。

そしてついにイエス様の物語である「ヨハネによる福音書」の中に、その言葉を見つけた。小声で声に出してその箇所を読み、それから声を押し殺して泣いた。その言葉を言ったのは……十字架刑で殺される直前のイエス様だったのだ。「私につながっていなさい」。この聖なる御言葉はその時、私の一部になった。

あれから時を経て、言葉の力を信じる者になった私は本屋のオヤジになった。それも聖書を売っている特別な本屋だ。私は今日もお客様を心からお迎えしている。あの時の可哀想だった自分を救ってくれた「聖書」の言葉を、今は手渡す人になっているのだから。

●選評

吉國選也さん、おめでとうございます。

辛い境遇にある一人の少年が、聖句を教わります。心に残ったその聖句がどこにあるのか知らなかった彼は、創世記から順々に読んでいきます。

でもその聖句は、聖書の終わりのほうにあったのです。長い時間をかけて、ヨハネによる福音書でようやく見つけた聖句に涙する、なんと感動的な場面でしょうか。

聖書を読んでほしいと願った、神さまのご計画が実現したのです。

（林あまり）

女手ひとつで四人のお子さんを育てていたお母様が倒れられ、家族がバラバラになってしまった幼少期のつらい日々の中で救いとなった、「私につながっていなさい」という聖書の言葉。インターネットも存在しない時代に、その言葉がどこにあるのかを自力で見つけ出すために聖書を初めて真剣に読み、聖書の膨大な言葉の海の中に、ついにその言葉を見つけた時の感動と、十字架刑につけられる直前のイエス様の御言葉だったと知った時の衝撃が、伝わってきました。その体験で「言葉の力」を信じられるようになり、今では書店員として聖書の言葉を人々に届ける立場になったという結末も美しく、胸を打ちました。

（清涼院流水）

準大賞

きせきのくすり

小松崎有美

その日、夫に癌が見つかった。手術をしても助かる見込みはない。突然のことに最初は激しく動揺した。お酒もタバコも吸わない夫がなんで。

「先生。もう一回ちゃんと調べて下さい！ お願いです！ そんなわけがありません」

「信じたくない気持ちはわかりますが、もう医療のチカラではどうすることもできないんです」医師の言葉が耳ではなく、胸に突き刺さった。

その帰り道、ぼおっと歩いていると、教会の看板に足を止められた。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところへ来なさい。 わたしがあなたがたを休ませてあげます」

何だかあやしい文言。それでも自然と身体が入口の方に向いた。「ごめんください」

私は牧師に話した。病気のこと。手立てがないこと。先が長くないこと。すると「ちょっとこの部分を読んでみましょう」と聖書を見せて下さった。それはイエスが病気について尋ねられた場面だった。イエスは答えた。

「（目が見えなくなったのは）この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです」

牧師は「たとえ不幸と思われることがあってもそこに神の摂理があり、必ず良いことに変えてくださいます。失望しないこと」と言った。

しかし、牧師の言葉とは裏腹に、夫の容体は日に日に悪化する。食べられない。寝つけない。ろれつが回らない。そして、クリスマスにはついに「最後の」外泊許可が下りた。

「これが最後のサンタさんか」

夫は切なさいっぱいにカレンダーを見た。私もその姿をどうしようもない気持ちで見つめた。

帰宅するとテーブルに娘が書いた手紙があった。「サンタさんへ」おそらくプレゼントのお願いだろう。おもむろに封を切った。

「パパのびょうきがなおるきせきのくすりをください」肩から崩れ落ちそうな衝撃。私はたまらず床に突っ伏して泣いた。

クリスマスの夜。私たちは枕元に「きせきのくすり」と書いた粉砂糖を置いた。プレゼントに気づいた娘はとびはねて喜び、それを飲んだ夫も「ああ！これでもうガンが治ったぞ」と声をあげた。その姿を見ながら聖書の言葉は嘘じゃなかったと思った。確かに世の中にはいろんな病気が溢れている。だけど、治らないからと言って、すべてに絶望してはならない。イエスが「神のわざが現れる」と言うように「きせきのくすり」が私たちにとっては生きる希望。神様が気づかせてくれた親子の絆なんだ。

三日後、夫は天国へ旅立った。最後は「安らかに眠れなくなるから泣くなよ」と私たちを笑わせて。夫らしい明るい仕舞いだった。

それでも来年のクリスマス。ケーキにふりかけられた粉砂糖を見たら、「きせきのくすり」を思い出して、ちょっとだけ涙するかもしれない。

●選評

小松崎有美さん、おめでとうございます。実に美しい、心にしみるお話です。絵本になったらいいな、と思いました。

薬を、粉砂糖に例えたところが素晴らしいです。ちらちら、きらきら、ふわふわとした粉砂糖。悲しみを優しく包み込んでくれる、清らかな粉砂糖が、読者の胸にもずっと降りつづけます。

（林あまり）

ご主人の癌が見つかり、「医療のチカラではどうすることもできない」と医師から宣告された絶望の中で導かれた教会。そこで牧師からもらった励ましの言葉も慰めとはならず、ついに最後の外泊許可が下ります。クリスマスを前に娘さんがサンタさんに「パパのびょうきがなおるきせきのくすりをください」とお願いをする箇所では涙があふれました。ご主人が天国へ旅立たれる前、ご家族には奇跡のような時間が現実にあり、その奇跡から生まれた永遠に消えない絆が感じられます。さまざまな人生の苦難の中にあるすべての人にとって、聖書の言葉は本当に「きせきのくすり」となりうるのだと、改めて教えていただきました。

（清涼院流水）

第1回 聖書エッセイコンテスト 授賞式

特別対談 「ことばで伝えるおもしろさ」 林あまり×清涼院流水

準大賞受賞のコメントを語る
吉國選也さん

準大賞受賞 オンライン参加の小松崎有美さん

特別対談トークイベントのようす

3月18日（土）午後、結果発表イベントが教文館ギャラリーステラを会場として、リアルとオンラインで行われました。大賞受賞の見澤富子さんはご欠席ながら「聖書は私の生きる知恵、支え、こころの家族でもある。これからも聖書と共に歩みたい」と、事前にコメントをお寄せくださいました（大賞受賞は授賞式後に通知）。準大賞2作品は、偶然この日の会場となった教文館キリスト教書部店長を務める吉國選也さん、そして小松崎有美さんでした。大賞1点、準大賞2点、佳作5点と、追加で設定された、特別賞のあまり賞、流水賞各1点、作者の方々10作品を表彰しました。

その後、キリスト新聞社の松谷信司さんが司会を務め、歌人で演劇評論家の林あまりさん、作家の清涼院流水さんお二人による対談が行われました。応募作品全体の講評と、お二人それぞれの創作活動の原点、文学、言語表現としての聖書、ことばで伝えることのおもしろさと難しさ、SNSにより表現がどう変わるか、終始ユーモアと熱量たっぷりに語っていただきました。

特別対談のもようは、日本聖書協会YouTubeチャンネルに公開しています。

佳作

『聖書』命との出会い　井上英治
ぼろっちいのが良いんだ　赤松真希
深夜に読む本は　石川総子
王宮に住むヤモリ　王宮ヤモリ
あなたの目は見ておられた　mika

あまり賞

聖書をなくした日　太田浩登

流水賞

祖父からの書簡　河島文成

第1回聖書エッセイコンテスト応募合計75点

第2回 聖書エッセイコンテスト 開催決定

応募要項の発表は5月以降の予定です。
日本聖書協会公式ウェブサイト特設ページをご覧ください

https://www.bible.or.jp/bibleessaycontest.html

キリスト新聞社主催 第3回 聖書ラノベ新人賞が決定しました

キリスト新聞社主催第3回聖書ラノベ新人賞の結果が3月22日に発表されました。大賞は該当作なしでしたが、準大賞には地野千塩氏による「いのちのパン屋さん」が受賞しました。番外編を含め40話の長編ファンタジーです。本誌には物語の冒頭のみ掲載します。

聖書ラノベ新人賞は、聖書を題材とした物語を募り、次代を担う書き手を育てることを狙いとする企画です。講談社投稿サイト「NOVELDAYS」を通じた応募において制限を極力排して広く呼びかけてきました。過去二〇一七年の第1回、続く二〇一八年の第2回では、いずれも100作を超す応募を得るなど大きな反響を得ましたが、キリスト教界で認知、理解が進んだとはいえません。この度、第1回「聖書エッセイコンテスト」との同時開催を通して、共通の課題と願いに取り組む、将来への期待を込めた企画であることに賛同し、日本聖書協会も第3回「聖書ラノベ新人賞」共催団体として名を連ねました。

絵：松谷翠

準大賞

いのちのパン屋さん

地野千塩

第1話　開店

私は、神様に仕える天使だ。

このたび、神様からの命令を受けた。天界から地上に降り立ち、神様を信じるクリスチャンなどを陰ながら見守る仕事を任せられた。

地上の人、特に日本人は知られていない事実だが、私が仕える神様がこの世界を全部創った。他に神様はいない。

日本人は西洋の神様に思われるかもしれないが、実は日本と繋がりが深かったりする。日本にある神社も神様の幕屋を表したもの、稲荷神社もイエス様と関係が深かったりする。おっと、今はこんな陰謀論じみた日ユ同祖論とは関係なかった。

今回は神様の命令で、パン屋として地上に向かう事になった。いつもはホームレスや知的障害者、コンビニ店員などに扮しているが、今回はパン屋。

なぜ？　まあ、普通のパン屋と少し違うようだし、場所も教会のすぐ裏に作るから、あまり心配はなかったが。何より神様の命令なので逆らうわけにはいかない。

続きはこちらでお読みいただけます。▼

第３回 聖書ラノベ新人賞 結果発表

全体講評・選評委員コメントなど詳細はキリスト新聞社特設ページにてお読みいただけます。

受賞作品

●大　賞　該当作なし

●準大賞　『いのちのパン屋さん』　地野千塩

●佳　作　『ガリラヤの風 ―個々の奇妙な証言―』　王宮ヤモリ

『川崎ホーリーブラザーフッド』　都倉

ラノベとは

「ライトノベル」（和製英語）の省略語で、中高生や若い世代を主な読者対象として1990年頃から定着した新しい小説の形態です。ジャンルは恋愛、SF、ファンタジー、ミステリー、ホラー、学園ラブコメなど幅広く、会話文や登場人物の一人称語りが多く、比較的手軽に読める文芸ジャンルです。アニメ、ゲーム絵に通じるイラスト表紙、随所に物語場面のイラストが添えられているのが一般的です。

ラノベはアニメ、ゲームなどの原作として、また、アニメやゲームを原作としてノベライズでラノベ作品が生まれるなど、出版社メディアミックスの一翼を担っています。大手出版社も軒並みレーベルを揃え、書店で目立つ一角に棚を占めるほどに成長してきました。

トルコ地震災害献金にお祈りとご支援をお願いいたします

アンティオケで被災したカトリック教会（写真上）とギリシャ正教会（写真下）

2023年2月6日未明、トルコ南東部とシリア北部の広い範囲でマグニチュード7.8の巨大地震が発生しました。多くの建物が倒壊し、発生後一週間で確認された死者は3万人を超え、被災者は2,600万人に上ります。聖書協会世界連盟から祈りの課題が届いています。心を合わせてお祈りください。

- 寝泊まりする場所がなく、救助を待っている人のために。
- 建物倒壊の恐れのため、家に入ることができない人のために。
- 親戚、友人、または愛する人と連絡が取れない人々のために。
- 支援・救助活動のために被災地に入った人々のために。
- 大切な家族を失った人々のために。

日本聖書協会では祈りと連帯の証として、2月16日より「トルコ地震災害募金」の受付を開始しました。
お寄せいただくご献金はすべて、下記の目的に用いられます。

- **被災者への聖書と人道支援の配布**
- **教会施設に避難している人々の生活再建支援**
- **被災者のトラウマの癒しの支援**

震源から最も近い都市イスケンデルンのカトリック教会に集められた支援物資

ご献金の方法

郵便振替：00160-2-18410
口座名：（一財）日本聖書協会 ／ ゆうちょ銀行〇一九支店（当座）0018410
（通信欄に「トルコ支援」と明記してください）
銀行振込：三井住友銀行 京橋支店（普通）6552744
口座名：（一財）日本聖書協会
（送金者のお名前の前に「トルコ」と付けてください）

詳しくはこちら

https://www.bible.or.jp/collection/turkey.html

コンビニ振込やクレジットカードでのご送金もお受けしています。特設ウェブページの「**コンビニ振込で献金する**」からお申し込みいただければ、専用振込用紙をお送りします。クレジットカードも「**クレジットカードで献金する**」からお申し込みください。

新刊書籍の紹介　『聖書語から日本語へ』鈴木範久

発行：教文館
四六判300頁
税込3,300円
ISBN978-4-7642-6167-9

聖書の言葉は日本語を大きく改革し、豊かにした。——池澤夏樹さん推薦!

本誌で長年にわたり「人物と聖書」を執筆している著者が、聖書の日本語訳により初めて登場した言葉〈聖書語〉が、どのようにして日本語として定着したか、新約を中心として詩編を加えた102語を、近現代の一般書ベストセラー60冊の用例から解説する。用例は小説などの文学や評論、専門書など様々なジャンルに及び、〈聖書語〉が幅広く社会に浸透していることが分かりやすく示されている。聖書を多面的に読むための手がかりとしても有用な一冊となっている。

第74回キリスト教視聴覚教育講習会 AVACO ワークショップ in 東京

今年のAVACOの講習会は、4年ぶりとなる会場開催と、オンラインによるライブ配信のハイブリッド形式にて実施いたします。詳細は5月頃、リーフレットまたAVACOwebサイトでお知らせいたします。どうぞご期待ください。

日程／2023年8月3日(木)
会場／東京コンサーツ ラボ(AVACOビル1F)
参加費／全プログラム……8,000円
1講座のみ（講座A、Bのいずれか一つ選択）……4,500円

講座A
「わくわくするよ! 紙芝居」　–演じてみよう!–
講師 菊池好江（紙芝居を演じる会ひょうしぎ）

講座B
「神さまはわたしがすき！　歌って感じる神さまの愛」
講師 小嶋理恵（原宿幼稚園教諭、原宿教会会員・CSスタッフ）

ソア51号発行によせて

総主事 **具志堅　聖**
General Secretary
Gushiken Kiyoshi

2022年10月、私は初めて南ドイツ第二の都市シュトゥットガルトにあるドイツ聖書協会（Deutsche Bibel Gesellschaft）を訪れました。ドイツ聖書協会はダイムラー、ポルシェを中心とした自動車、機械産業が集中するこの都市にあります。同地にサバティカルで滞在している吉田新氏（東北学院大学教授）と共に、クリストフ・レーゼル（Dr. Christoph Rösel）総主事に面会しました。実は過去10年、ドイツ聖書協会は大きな財政難を経験しており、施設や人員の規模を縮小し、財政の改革を行っています。

一方で、明るいニュースもありました。2001年にスタートした聖書翻訳「バシースビーベル」(BasisBibel)の旧新約聖書全巻の翻訳が2021年に完了し、出版されたことです。これが教会に広く受け入れられ、販売実績もとても好調なのだそうです。およそ500年にわたり、ドイツ語圏ではルター訳聖書の改訂版が最も広く用いられてきましたが、青年への伝道を推進する団体から、現代語版聖書の出版企画が出されました。その熱意と尽力の結実がバシースビーベルです。

この翻訳は次の2つの方針から出発しました。①新しく、誰にでも読みやすい聖書翻訳の必要性、②デジタルメディアでも親和性が高い文章です。そこから議論がなされ、理解度［わかりやすさ］、文の長さ［長文を避ける］、意味単位配分［表現の繰り返しを省く］、外来語の不使用［キリスト教用語をなるべく避ける］、情報の直線的伝達［回りくどくしない］などの基準が定められました。キリスト教文化が深く根付いているドイツでバシースビーベルがどのように受け入れられ、用いられるのか、とても興味深く、今後も注視していきたいと思っています。

「あなたの言葉は私の足の灯 私の道の光」

（詩編119:105）

ドイツ聖書協会は聖書関連の出版において世界トップクラスです。世界中で用いられているギリシア語、ヘブライ語、ラテン語の聖書校訂本や、関連書籍を出版しており、これらの事業が最も重要な働きとして位置づけられています。そのほか複数のスタディーバイブルを出版しており、その事業内容は日本での製品開発にも参考となるものでした。世界の聖書協会のネットワークの真価はこのような情報と経験を共有できることにあります。これからも皆さまにその一端を発信してまいりたいと思います。

2021年発行ドイツ語聖書「バシースビーベル」（BasisBibel）

編集後記

上野の国立科学博物館を初めて訪れたのは小学一年生の時でした。恐竜図鑑に載っていたアンモナイトを見たいと父にせがんだのがきっかけでした。恐竜の骨に触わりソ連科学アカデミー発行の証明書をもらったのを今でも持っています。

新幹線〇系、D51が入口に鎮座した秋葉原の交通博物館には、鉄道車両、自動車、飛行機など、あらゆる乗り物がありました。ここには何度行ったか分かりません。内緒で友達と行き、後で親に叱られた経験もあります。子供のころ博物館は未知の世界への扉を開く特別な場所でした。

古代オリエントの様々な展示物を見ると、聖書への繋がりを感じます。画面越しや、複製された電気信号では、得られない手応えと感動がそこにあります。

ご意見、ご感想を広報部（info2@bible.or.jp）までお寄せください。

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C020167
この印刷物はFSC® 認証紙を使用しています。

新・歴史接写
2

川瀬巴水の「新版画」に描かれた聖書館

クリスマスカード（日本聖書協会所蔵）
左側に口語訳ルカ2:14の暫定訳、右側に英語でクリスマスと新年のお祝いが記されている。

2022年4月、2枚のハガキ大の版画が見つかった。銀座の聖書館ビルを描いたもので、「巴水」という落款印が押されていた。「新版画」の旗手、川瀬巴水（1883–1957）の作品らしい。「新版画」は、大正から昭和にかけて制作された新しい様式の木版画で、海外に盛んに輸出された。アップルの創業者スティーブ・ジョブズが「新版画」をこよなく愛したことは有名である。11月、古い資料が入った箱から同じ版画が貼付されたクリスマスカードが見つかった。

その間、「新版画」の制作販売を手がけていた渡邊版画店（現：渡辺木版美術画舗）が同じ銀座にあることを知り、今年1月、話を伺いに行った。すると、巴水の1952年の日記に、「聖書館の写生をなす」(9月29日)、「聖書館はがき下がき」（10月1日）、「聖書館だめが出てかき直すことになる」（同3日）、「聖書館かき直し出来る」（同5日）、「聖書館せんがき」（同12日）、「聖書館色ざし」（11月1日）とあり（『川瀬巴水木版画集』毎日新聞社、1979年、245頁）、版画は1952年、日本聖書協会が渡邊版画店を通じて巴水に制作を依頼したことが判明した。

さらに、巴水の日記とスケッチブックが、彼の住んでいた大田区の郷土博物館に所蔵されていると聞き、2月、取材に行った。学芸員の方が「聖書館27.9.29」と記されたスケッチを見せてくれた。上述の日記によると、巴水はスケッチを描き直しさせられている。スケッチと版画を見比べると、通りに描かれた人と車の配置が異なっている。

聖書館スケッチ（大田区立郷土博物館提供）
日記には「祥文堂（文祥堂の誤り）二階をかりて写生をなす」とあり、巴水は聖書館ビル斜め向かいの文祥堂銀座ビルの辺りからスケッチをしたことが分かる。

また版画はスケッチにない雪景色である。これはクリスマカードという用途に合わせたものなのだろう。

クリスマスカードに添えられた聖句は、現在の口語訳(新約は1954年発行）の訳文「いと高きところでは、神に栄光があるように、／地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」（ルカ2：14）と若干異なっている。1952年時点の未定稿であろう。口語訳事業は国内の献金と米英聖書協会の支援で行われていた。日本聖書協会は口語訳事業を内外に周知するため、海外で人気のあった巴水の版画と口語の暫定訳を添えたクリスマスカードを製作したと考えられる。

（日本聖書協会編集部　飯島克彦）

SOWER ソア No. 51
2023年5月1日発行
［年1回発行］
発行・一般財団法人 日本聖書協会
〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目5-1 聖書館ビル
電話 03-3567-1988 FAX 03-3567-4451 振替 00160-2-18410

Craftsmanship

匠の技、光る。

日本語による最初の講壇用聖書が文語訳で登場してから127年、いよいよ、「聖書協会共同訳」の講壇用聖書が発刊されます。

現在、ヨーロッパの伝統が今も生きるオランダの工房（フォプマ・ヴィーエル製本所：バッハが使用した「カロフ聖書」のファクシミリ版製作に携わる）の職人により、一冊一冊丁寧に製作されています。

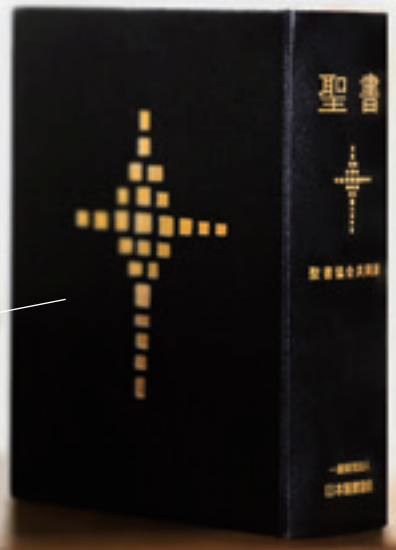
教会、教育機関、ブライダル、職場、ご家庭などそれぞれの場で、キリスト教の伝統と信仰を大切に育み、次世代へと継承するために、聖書協会共同訳 講壇用聖書が広く用いられることを、心から願っております。

聖書

聖書協会共同訳

The Pulpit BIBLE

講壇用聖書 今春発刊



仕様：
総革装 A4判
金箔押し書名／ロゴ
小口は三方金
専用化粧箱入り
見返し／化粧箱内部には
工房オリジナルマーブリング
ペーパー使用

■ 講壇用聖書 SI98
■ 講壇用聖書（旧約聖書続編付き）SI98DC

＜サイズ比較＞

SI53 中型
（B6判）

リーフレットのご請求は
キリスト教専門書店または
日本聖書協会まで

日本聖書協会　distri2@bible.or.jp

一般財団法人 日本聖書協会のホームページ
https://www.bible.or.jp/

編集協力＝P-Script
デザイン＝株式会社 デザインコンビビア

印刷＝株式会社 高速オフセット